

一般質問

※ 議長（片渕卓三）、監査委員（篠田一彦）は、慣例により一般質問を控えています。



松原たかし 議員



(動画配信)

Q 次期総合計画の策定について伺う

① もっと身近に感じていただける内容へと見直していきたい

Q 市民や事業者の意識も大きく変わり、社会のニーズと行政計画の内容との間に、大きな差が開きつつあると考えるが、次期計画の策定の方向性について伺う。

① 企画部長 市民や事業者とともに、まちづくりを進めていくためには、その将来像を共有することが重要だと考えている。このため、他の自治体の例

を参考に、もっとシンプルな内容にするなど、総合計画をもっと身近に感じていただけるような内容へと見直していきたい。

Q 平子の森の利活用について伺う

① 市民による利活用を、更に促進していきたい

Q 「平子の森」の利活用検討の状況について伺う。

① 企画部長 市民や民間事業者と一緒に、まずは小さく始めて、大きく育てていく取組を進めている。11月末は市民企画のイベントが現地で開催され、大変な好評を得た。

また、平子の森の可能性をPRしてきたところ、様々な分野から問合せをいただくようになってきている。

Q 民間事業者との取組の見込みについて伺う。

① 企画課長 平子の森は「市民共有の財産」であることを念頭に置き、利活用を希望する民間事業者を、広く募集する仕組みづくりに取り組んでいる。

Q 平子の森の利活用の促進や、周辺地域の利便性向上につながる道路整備の検討状況について伺う。

① 企画部長 土地の分割利用が可能となるように、昨年度から新たな道路の整備や、敷地内にある「南北道路」の在り方についての検討を進めている。

その他の質問項目

○空き家対策の状況について



川村つよし 議員



(動画配信)

Q 札幌市などが作成した生活保護制度周知ポスターを当市も掲示しては？

① 本市独自で作成し、掲示することは考えていない

Q コロナ禍において日々の暮らしに行き詰まる方が大勢あり、それは今でも継続している。生活困窮者が増加する中、札幌市などは、生活保護制度の利用を促すポスターを作成し掲示した。当市も実施してはどうか。

① 健康福祉部長 ポスターの作成と掲示について、今のところ本市独自で作成し掲示することは考えていない。生活保護を

必要とする方がためらうことなく相談できるよう、引き続き生活保護制度の適切な周知を図っていきたく考えている。



Q 困窮状態にあっても生活保護は受けたくない、思い込んでいる人もいます。その心理を、どうほぐすかが課題だ。A4のものを、コンビニやまんが喫茶などへ掲示依頼してはどうか。

① 福祉課長 申請しやすくなるよう、まず、ホームページや生活保護のしおりの内容を見直

していきたい。

Q 带状疱疹ワクチンへの補助を尾張旭市でも実施しませんか

① 情報収集の上、慎重に判断したい

Q 名古屋市で行われている、带状疱疹ワクチン予防接種への補助を、尾張旭市でも早期に実施してはどうか。50代から罹患が増える病気だが、予防接種によって働き盛りの人の病欠を防げるなら、医療経済学だけでなく、病欠による経済損失への効果も加えて期待できる。

① 健康福祉部長 市独自の補助制度の創設については、費用対効果、県内で先行実施している2自治体の実績や国の動向を注視するなど、情報収集を行った上で、慎重に判断したい。

一般質問



市原 誠二 議員



(動画配信)

Q 公共工事の施工時期の平準化による事業者・労働者の負担軽減を！

A 施工時期の平準化促進のため債務負担行為(※)の活用などの取組に努めている

Q 公共工事は年度初めに詳細な検討・設計が開始される。そのため工事は年度末に集中する。尾張旭市は全国の市町村と比較しその傾向が強い。工事事業者や労働者への負担も大きい。債務負担行為を活用し工事施工時期の平準化を進めるべき。

A 総務課長 債務負担行為の

活用について、指針的なものを取りまとめたい。施工時期の平準化に向け、担当部署において積極的に検討・選択されると考えている。

※債務負担行為：市が発注する工事予算などを、年度またぎで使えるようにする処理のこと。年度内で実施しようとする仕事のやり方ではなく、翌年度以降も業務が可能となる。

Q 保育園に入園できるかどうかあらかじめ想定できる仕組みの導入を！

A 入園基準のボーダーラインは年ごとに違い当市では難しい

Q 毎年0～2歳児の保育園への入園希望者数が受入定員を上回っている。保育園に入園できるか申込みの段階で、不安に思

われている保護者の方も多い。こうした不安や負担軽減に資する、「ホームページ上や無料通信アプリなどを活用した保育園利用調整基準の試算及び入園の可能性」が分かる仕組みを導入してはどうか。

A こども子育て部長 3歳未満児で御要望にお応えできていない状況がある。入園が難しい場合には、2月の入所決定通知を待たずに、12月末頃までには案内をお送りしている。御提案の仕組みは、第一希望の保育園や点数化している入園基準のボーダーラインに、年ごとに違いがある本市では難しい。

現在は、保育コーディネーターを中心に入園相談に応じている。各御家庭のニーズに応じた案内を行い、保護者の不安が軽減できるよう努める。



安田 吉宏 議員



(動画配信)

Q 市役所駐車場（旧市民会館部分）の課題は？

A 暫定的な駐車場として整備を行ったが、恒久的な活用については方向性が定まっておらず、大きな課題である

Q 市役所駐車場でのキッチンカーによるクレープ販売の経緯と成果について

A 産業課長 市役所駐車場へのキッチンカーの出店は、コロナ禍における事業者支援として実施した、地域の魅力商品創出事業「旭色プロジェクト」の一環として令和3年3月に実施したもの。

その成果は「旭色プロジェクト」をPRできただけでなく、利用者から「またやってほしい」、「楽しそう」という声が聞かれ、事業者支援、にぎわいの創出につながった。

Q 今後の市役所駐車場の利活用について

A 総務部長 地域産業の振興や市民サービスの提供など、本市のまちづくりに資する利活用については、今後も引き続き、関係部署と適切に対応していく。

この項目のその他の質問項目

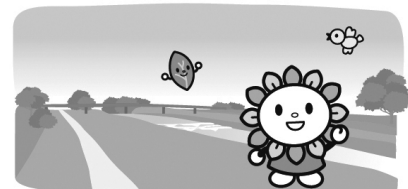
- ・ 駐車場整備工事を終えて利用者からの評価について
- ・ 現在の課題について
- ・ 現在の駐車場以外の利活用について

Q 矢田川河川緑地において市民に利用してもらう際の課題は？

A 矢田川河川緑地には、駐車場、トイレや手洗い場がないので設置してほしいという意見を利用者や周辺の方から聞いている

この項目のその他の質問項目

- ・ 本市における矢田川の位置付けについて
- ・ 矢田川、矢田川河川緑地の管理者について
- ・ 矢田川河川緑地の活用状況について
- ・ バーベキューについて



一般質問



早川 八郎 議員



(動画配信)

Q ドローン学校や実験会場など企業誘致的発想を本市の未来に役立てては？

A まちづくりを進める上で重要な要素の一つであると思う

【ドローン事業と本市の未来構造について】

Q 財政力向上構造のための変革において、ドローン学校や実証実験会場など企業誘致的発想を視野に入れ、本市の未来に役立てては？

A 市民生活部長 ドローンは、災害現場や農業、エンターテインメントの分野などで活用され、その可能性や市場規模の大きさ

を感じる。ドローン学校などの企業誘致的発想は、本市の財政や将来に影響を与える企業誘致と同じく、未来への投資の側面もある。市として明確な位置付けや財政的な影響も見据えたビジョンを持ち、取り組んでいくことが大切である。こうしたことはまちづくりを進める上で重要な要素の一つであると思う。



Q インボイス制度導入において本市財政への影響による対応と取組は？

A 事業者支援に取り組むことで、将来の税収増へとつながる流れを作りたい

【インボイス制度と本市の財政について】

Q 2023年にインボイス制度が導入され、消費税免税事業者が取るべき対応が変わる。この制度導入で、本市の財政にも影響を与えると思うが、その対応と取組について伺う。

A 総務部長 この制度導入による本市財政への影響は、消費税増収に伴う地方消費税交付金等の増収が見込まれる一方、廃業を余儀なくされる事業者が生じることによる減収など、増収と減収いずれの影響も見込まれる。市としては、事業者への支援に取り組むことで、将来の税収増へとつながる流れを作りたい。



秋田さとし 議員



(動画配信)

Q 尾張旭市の人口 転入・転出について

A 2013年から2020年までの間は、全て転入超過になっている

Q 定住促進の一助になり得る自治会加入率について

A 市民生活部長 過去5年間の自治会加入率は、平成28年度が64.39%、平成29年度が63.47%、平成30年度が63.07%、令和元年度が61.59%、令和2年度が60.53%、本年度が59.45%である。

Q 町内会に加入していただくためのマニュアル、Q&Aの作

成はできないか

A 市民活動課長 現在、自治会・町内会活動の運営や加入促進のためのQ&Aを取り入れた自治会・町内会ハンドブックを作成している。

Q 公園の維持管理と公園愛護会の状況について

A 公園愛護会は、高齢化等で活動に支障が出てきている団体もある

Q 公園の役割について

A 都市整備部長 大きく4つの役割がある。一つ目は、地球温暖化防止等良好な都市環境の提供。二つ目は、災害時の一時避難場所等都市の安全性の向上。三つ目は、自然とのふれあいの場等多様な活動拠点。四つ目は、地域交流の場の形成である。

Q 夏場の雑草の対応における

除草剤の使用について

A 人体への影響、周辺の植物、またペットへの影響を考えると現時点では、使用は難しいと考えている。

Q 効率的な雑草の対応について 例えば熱湯を使用して根まで枯らす工法について

A 都市整備課長 実用性や費用対効果などについて検証したいと考えている。



その他の質問項目

○変わりゆく学校生活について
・中学生の新制服導入について

一般質問



若杉たかし 議員



(動画配信)

Q 新型コロナウイルス感染症に対する学校施策の効果について伺う

A 学校でのクラスターの回避など、全てが効果的だったと考える

Q 新型コロナウイルス感染症に対するこれまで行ってきた学校施策について伺う。

A 教育長 分散登校の実施。日常的にはマスクの着用、手洗い、換気を学校以外家庭にも協力を要請、発熱などでの登校の自粛の要請。感染者が出た場合の感染拡大防止対策。学校公開の中止。授業日数確保のための

夏休み等短縮。国の施策としてのタブレット配布の前倒しなど教育活動継続のために多くの施策を実施した。

Q 学校現場では何を感じたか。

A 管理指導主事 授業、行事が当たり前のように実施できたり、何気ない日常生活を送ることができたりすることの“ありがたみ”を感じた。

Q 今後の対応について伺う。

A 教育長 ウィズコロナ、アフターコロナの時代にふさわしい教育の在り方を研究していく。

Q 市職員の窓口対応の研修をしているのか伺う

A 新規採用職員と窓口、電話対応の会計年度任用職員に対して行っている

Q 市民との接点である市役所1階の窓口の扱いは特に重要と

考える。職員の窓口対応研修について伺う。

A 企画部長 新規採用職員に対しては、入庁初日、4月、10月に行っている。窓口、電話対応の会計年度任用職員に対しても接遇研修を行うことによって職員としての意識の高揚と資質の向上を図っている。

Q 行き違いでクレームに発展する場合があると思うがクレームに対する研修はあるのか伺う。

A 専門研修にクレーム対応研修がある。顧客満足度の観点からクレーム発生の仕組みやロールプレイングを通じてクレーム対応を学ぶ。他に内部研修講師の養成を目的としたものや“接客力”、“クレームの防ぎ方、対応の仕方”など窓口対応の向上のための各種研修を受ける機会と環境を設けている。



日比野和雄 議員



(動画配信)

Q 南海トラフ地震での避難者の収容体制について伺う

A 避難所への避難者は4131人を想定し小中学校の体育館を指定避難所としている

Q 南海トラフ地震の備えについて伺う。

A 総務部長 過去の大規模災害においても発災から3日程度で支援物資が届いたことから想定最大避難者数の3日分に当たる約7万5000食の食料と飲料水を備蓄している。家庭での備蓄は3日間分、できれば1週間分の用意をお願いしている。

Q 家具転倒防止支援事業について伺う。

A 危機管理課長 高齢者や障がいをお持ちの方など一定の条件に当てはまる方からの申請に基づき、自宅の家具や家電などの転倒を防止する作業を支援する制度である。

Q 今後の備えへの見直しについて伺う。

A 総務部長 停電時の電源確保については、今後の課題であると認識しており、電源供給が可能な公用車の配備、ポータブル蓄電池の購入などで対応する。

Q AI OCRの進捗状況等について伺う

A AIによる文字認識の学習が進んでおり、読み取り精度は日々向上している

Q AIチャットボットの進捗

状況、活用度合いについて伺う。

A 企画部長 市ホームページ及びLINE上で利用できるようになっているが、寄せられる声が多様多岐なため、事前に用意している問答集に該当しない場合が多くなっている。システムに期待する内容が合致していない状況である。

市ホームページの検索機能を活用することで代替できると思うので、チャットボットの利用停止に向け調整している。

Q 国の動向への対応について伺う。

A 行政手続のオンライン化のため、マイナンバーカードを用いてオンライン手続を可能にできるように対応を進めている。

一般質問



谷口 武司 議員



(動画配信)

Q 市民憲章の役割とは？

本市の「まちづくりのよりどころ」。市民一人一人が

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

【まちづくりに市民憲章を活用】

Q 市民憲章の普及と活用について伺う。

① 企画部長 まちづくりのよりどころとなっている市民憲章の理念は、各種計画や施策などに溶け込んでいる。将来に向けて大切に継承していくものだと思うので、市民の皆さんの目に触れるような周知方法を検討し

たい。

Q 人を中心とした新しい時代に求められる駅前広場(交通結節点)とは？

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

【三郷駅前広場を中心としたまちづくり】

Q 交通結節点としての整備方針について伺う。

① 都市整備部長 バスやタクシーの待合や乗降スペース、送迎や障がい者用の乗降場所の整備を予定している。

Q 駅前広場の規模と車両の流入見込数について伺う。

① 三郷駅周辺整備推進室長 国土交通省監修の「駅前広場計画指針」に基づき円滑な交通に

必要なスペースを確保している。バスやタクシー、送迎などの駅利用者のほか、マンション居住者や店舗利用者の車両などを想定し1時間当たり最大で約170台と見込んでいる。

Q 都市の広場機能の充実、駅前広場の活用について伺う。

① 都市整備部長 三郷駅前の市街地再開発事業では、公共施設の導入による公共空間の確保のほか、周辺の空間も含めた一体的な活用により、誰もが自由に利用できる空間を創出したいと考えている。

Q 周辺地域への波及効果について伺う。

① 三郷駅前の整備により、交通及び生活の利便性が向上することにより、森林公園線を含めた地域全体に経済的波及効果が高まるものと期待している。



丸山 幸子 議員



(動画配信)

Q ライフステージにおける切れ目のない支援について伺う

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

Q 文科省は、昨年度の児童生徒の自殺者数が415人と前年度比31%の増加との報告をした。いじめや不登校など児童生徒の悩みの対応について伺う。

① 教育長 本市においても、いじめ・不登校など年々増加する傾向にあり、より積極的な対応が必要となってきている。年度途中ではあるが、スクールソーシャルワーカー、心のアド

バイザー、学校教育支援教員の対応時間を増やし、新たに、中学校への不登校対策非常勤講師の配置をするなど未然防止を含めた対応を実施している。

Q 子どもたちや保護者の悩みに対応するには、学校機関だけではなく、子育てや医療を含んで福祉との連携が必要である。教育と福祉の連携について伺う。

① 現在は家庭において様々な問題が複雑に絡み合っており、学校だけでは解決するのは難しくなっており、福祉との連携は必要不可欠である。

① 健康福祉部長 昨今は、生活困窮やひきこもりなど既存の枠組みに当てはまらない課題や、1世帯で複数のリスクを抱えるといった問題も生じている。そうした世帯への支援は幅広い分野にまたがることから、

関係部署や関係機関との横断的な連携が不可欠である。

Q 教育、子育て、福祉、医療、就労など関係機関が連携し、一人一人に合った切れ目のない支援を行うためには、子ども・若者支援地域協議会の設置が必要であると考えが見解を伺う。

① 市民生活部長 子ども・若者支援地域協議会の設置により総合的なネットワークを形成し、それぞれの専門性を生かすことができるため、様々な不安や悩みを抱える方々への支援が期待できる。具体化に向けては、対応方法や体制整備など事前に調整すべき事項があるが、全庁的な視点で検討を進めていきたい。

その他の質問項目

○子宮頸がんワクチンについて
○矢田川河川緑地の散歩道について

一般質問



芦原美佳子 議員



(動画配信)

Q 育児休業取得時の保育園でのきょうだいの受入状況について

A 令和4年度から育休取得時に入所継続可能な園児の対象年齢を2歳児以上に拡大する

【子育て支援の充実について】

Q 令和2年、育休退園廃止について質問した際、市長は段階的措置も含め実現に向けて取り組む意向を示したが改めて伺う。

A こども子育て部長 育休退園について検討を進め、保護者の負担軽減と子どもの健全な発育の一助となるものと考え、入

所継続可能な園児の対象年齢を2歳児以上に拡大する。

Q 子育て家庭の保護者の育児疲れの解消を図るため、リフレッシュで活用できる一時預かり事業を実施する考えは？

A 子育て支援センターでの事業や保育事業における一時預かり等、既存事業との連携やすみ分けも含め、保護者のニーズに応じた事業の検討をしたい。

Q 地域ねこ活動の理解を地域住民に広げるための取組について

A チラシやパンフレットの作成については、地域ねこ活動団体の意見を伺い具体的に検討を進めていきたい

【飼い主のいない猫対策について】

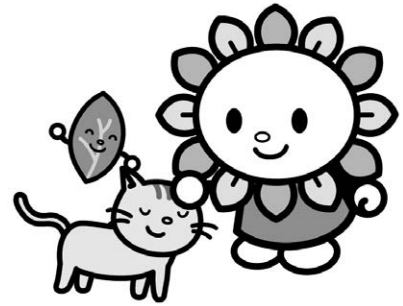
Q 財源確保と理解促進のため

にクラウドファンディングの活用について

A 市民生活部長 クラウドファンディングとして実施する場合、具体的な目標設定や集まった資金に関する制度設計が必要。飼い主のいない猫を救うために必要な取組を地域ねこ活動団体と共に考え、地域環境向上のためにどのような事業費の確保がふさわしいかを検討していきたい。

この項目のその他の質問項目

・地域ねこ活動の支援について
譲渡会の支援について



陣矢 幸司 議員



(動画配信)

Q 地域消防防災施設「ほんまる」の日勤救急隊について

A 現場到着時間短縮を目的とし、救急車及びポンプ車を配備運用している

Q 日勤救急隊の効果について

A 消防長 日勤救急隊を配置したことにより、矢田川以南の地域への現場平均到着時間が5分42秒となり、令和2年より約50秒短縮された。

Q 今後の展開について

A 令和3年10月から日勤救急隊の運用を開始し、救急需要の増加に応じていく体制の検証

と、救急車の現場到着時間短縮に向けた効果検証を行い、令和4年4月からの本格運用に向けた体制を作る。休日や24時間の運用については、適切な時期に対応できるよう検討する。

Q 防災行政無線の運用実績について

A 全国瞬時警報システムJアラートを使用した訓練放送を4回、啓発放送を17回実施している

Q スピーカーの改良の効果は？

A 総務部長 スピーカーの種類及び配置については、専門業者が現地調査にて状況を確認し、騒音のデータを取得後、机上シミュレーションを行い工事の仕様を決定した。従来型のスピーカーと合わせ、到達距離が長い高性能スピーカーを、地域

環境に合わせて整備している。

Q その他の伝達方法について

A 屋外スピーカーからの放送は、季節や天候、地形、場所などにより大きく影響を受けるので、放送の内容が聞き取りづらい場合の対策として、今回の工事に合わせ、防災アプリの運用を開始している。放送があったことをプッシュ通知でスマートフォンにお知らせし、音声と文字で内容の確認をすることができる。言語は英語と中国語にも対応している。

Q 無線子局の利用方法

A 無線子局の運用に関しては、「防災行政無線局子局運用基準」を定めている。子局を使用できる者は、連合自治会長、自主防災組織の本部長などで、そのほか無線管理者又は消防長が許可した者となっている。

一般質問



さかえ章演 議員



(動画配信)

Q 本市のふるさと納税の誘導促進策について

A 返礼品の充実やポータルサイト増設を検討し、共通返礼品及び電子感謝券等の先進事例を研究する

Q 岐阜県土岐市は陶磁器美濃焼等でふるさと納税が、昨年度の前年増加率が全国1位になった。当市も瀬戸市との共通返礼品に瀬戸焼を指定し、ふるさと納税の拡大を図る検討について伺う。

A 財政課長 共通返礼品についても制度の理解を深め、活用に向け研究する。

Q 蒲都市は、ふるさと納税の返礼品として現金代わりに使える電子ポイント「電子感謝券」を愛知県で初めて11月から導入した。例えば3万円の寄付で、1万ポイントが付与される。有力な特産品がない本市における当制度の活用について伺う。

A 総務部長 先行する市町村での利用状況を確認しながら、事業者等の意向や費用対効果なども確認した上で検討したい。

Q 15万人が利用するウッドフレンズ森林公園ゴルフ場の利用料に、「電子感謝券」が使えれば、周辺自治体からの当市へのふるさと納税が急増すると思うが所見について伺う。

A 財政課長 利用券を返礼品に加える要望をしてきたが、電子感謝券の活用も含めて引き続き声掛けしていきたい。

Q マイナンバーカードの利活用による老後生活安心プランの提案について

A 老後生活安心プランについては、デジタル技術の利活用も含め、必要な事業を進めていきたい

Q 仮称「年金支援ポイント」付与制度は、マイナンバーカードのICチップの空き領域にアプリを搭載することで、消費の際に当該ポイントが付与され、また長期間蓄積・運用され、年金取得時に還元される提案だ。不安定な公的年金制度の補完、老後生活の安定化に寄与するのが目的だが、当提案に対する所見について伺う。

A 企画部長 御提案の仮称「年金支援ポイント」付与制度は、当市単独での運用は難しいが、民間の創意工夫で課題解決ができれば素晴らしいと思う。



花井 守行 議員



(動画配信)

Q H S C (非常に敏感な子)と思われる児童生徒への理解と支援する仕組みについて

A H S Cを含めた子どもの困難な状況について教職員が理解を深める

Q (ハイリー・センシティブ・チャイルド) H S Cの特徴は？

A 教育長 H S Cは1996年に心理学者のアロン博士が発表した概念で、生まれつきとても敏感な感受性を持った子どものことをいい、その特性は主に、「深く処理する(じっくり考える)」、「過剰に刺激を受けやすい」、「全体的に感情の反応

が強く、特に共感力が高い」、「ささいな刺激を察知する」の四つである。現状としては、H S Cは病気やしょうがいとは異なるものであるため、医学的な検査や診断がない。

Q H S Cの特徴から推測される、学校における問題や支障について

A 「人が集まるところや騒がしいところが苦手」「音、におい、光、肌触りなどの刺激に敏感」「他の子どもが強い口調で叱られているのが怖い」などがあり、全校の子どもたちが集まる集会や大きな音楽を鳴らす学校行事などがある。H S Cの子どもたちは、敏感さ故に、現代社会で生きづらさを抱えていることも多いため、学校としても生活を送りやすいよう配慮することが必要になると考えている。

Q 不登校とH S Cの関係は？

A H S Cを原因として不登校となっている児童生徒は、現状としては把握ができていない。子どもの困難な状況について教職員が理解を深め、一人一人の個に応じた適切な支援・対応ができるようにしていく。

Q 約1億9千万円の外壁等改修工事を終えた「スカイワードあさひ」の汚れについて

A 安全性確保のための補修等に加え清掃を実施した

Q 汚れについて

A 総務部長 外壁タイルの一部に経年変化による変色部分が残った。剝落の危険性はなく塗装を行った場合は、将来的に剝離・変色等により、逆に一層目立ってしまう可能性があるため、張り替えや塗装は行わなかった。

一般質問



山下 幹雄 議員



(動画配信)

Q マイクロ水力発電事業の覚書締結による本市への納付金は怎么样了か

A 年間約70万円の収益を見込んでいる

Q ホームページに年間約70万円の収益を見込んでいるとあるが、数値の根拠、どのように算出や交渉をしたか。

A 都市整備部長 発電期間20年間の売電見込額から、発電事業者が負担する、イニシャルコスト（発電設備設置費用）とランニングコスト（保守等費用）を除き、その残りの2分の1の額が本市への還元料となり、

20年間の売電見込額に対する還元料の割合が納付率となる。算定は発電事業者が事業計画に基づき作成した資金計画を根拠としている。

Q イニシャルコスト及びランニングコストはどのように積算したか。

A 上水道課長 発電事業者の支出額については、企業の個別情報のため、金額の公表はできない。

Q 国のFIT制度による買取価格34円に年間発電予測量に乗じると、年間約1千万円ほどとなる。事業者の年間納付額約70万円という数字は、納付率7%ということか。

A 覚書における納付率は5.9%相当となる。約70万円の内訳は、売電利益還元料と行政財産目的外使用料の年間約4万円

との合計になる。

Q 機械装置に係る固定資産税収入（税率1.4%）は、事業者からの申告に基づいて算定するというのでよいか。

A 税務課長 そのとおりである。

Q 協定による事業だが不明瞭な部分が多いと感じる。透明性の高いプロポーザルなど、公契約による事業として進めるべきであったと考えるが、事業推進に当たりどのようなハードルがあったか。また、県との調整はどうだったか。

A 都市整備部長 ハードルと呼べるものは特になく、事務上の手続として県営水道の余剰水圧利用のため、愛知県企業庁の承認を受ける必要があり、事前協議を行った。

★令和4年第2回3月定例会の日程（予定）

- 2月16日（水） 請願、陳情の受付締切（正午まで）
- 17日（木） 議会運営委員会
- 28日（月） 議会運営委員会
- 3月1日（火） 本会議（初日：議案の上程、説明）
- 7日（月） 本会議（一般質問）
- 8日（火） 本会議（一般質問）
- 9日（水） 本会議（一般質問）
 予算決算特別委員会（全体会）
- 14日（月） 福祉文教委員会
 予算決算特別委員会福祉文教分科会
- 15日（火） 都市環境委員会
 予算決算特別委員会都市環境分科会
- 16日（水） 総務委員会
 予算決算特別委員会総務分科会
- 17日（木） 予算決算特別委員会（全体会）
- 23日（水） 議会運営委員会
- 24日（木） 本会議（最終日：採決）

※本会議・委員会は午前9時30分から始まります。

議会傍聴アンケート ご意見・ご感想の紹介

尾張旭市議会では、議会傍聴アンケートを実施しております。昨年は、71人の傍聴者の方に御協力をいただきました。ありがとうございました。昨年中に市議会へ寄せられた御意見・御感想の一部を御紹介いたします。本会議を傍聴されたときは、ぜひ、アンケートに御協力ください。

- ・当局の答弁や議員の質問も整理され、口調もゆっくりで市民に伝わりやすいと感じました。（令和3年3月定例会）
- ・一般質問を傍聴しましたが、傍聴者が少ないことにびっくりしました。（令和3年6月定例会）
- ・初めて傍聴しました。市議会がどのように運営されているのかを目の前で知ることができました。（令和3年9月定例会）

※御意見・御感想の内容は、一部要約しています。